

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：35307

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K14304

研究課題名(和文)小児がんに着目した「がん教育」支援プログラム構築のための基礎的研究

研究課題名(英文)a basic study to construct a cancer education support program focusing on childhood cancer

研究代表者

森口 清美(moriguchi, kiyomi)

就実大学・教育学部・准教授

研究者番号：80279356

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：小児がんに着目した「がん教育」支援プログラムを構築するために、「がん教育支援ツール」を作成し、実践授業を実施し、評価を行った。「がん教育支援ツール」の一つは、小児がんを克服し復学した小学校2年生の子どもが小学校を卒業するまでの学校生活と子どもの心情を描いた絵本である。また、小児がんの子ども達が安心して復学できるために、教員、保護者、医師らにインタビューを行い、動画を作成した。

実践授業は、小学生5年生を対象に絵本や動画が「がん教育」に活用できるかについて検討を行った。また大学生を対象に「自己学習後に教え合い、学んだことを伝える動画をグループで作成する」授業を実施し、評価を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在実施されている「がん教育」は、外部講師に依頼しているケースが多い。また、大人のがん予防に着目して生活習慣を見直す内容となっており、がん検診の啓蒙活動も行っている。しかし小児がんは生活習慣病と関係なく、がんの予防という観点からは説明できない。そのため、小児がんを含めた「がん教育」を実施している学校は見受けられない。がんと闘っている子どもと保護者は、周囲の児童からの理解と協力を強く望んでいる。その方策としての「小児がん」に着目した「がん教育」プログラム開発は意義がある。

研究成果の概要(英文)：In order to construct a "cancer education" support program focusing on childhood cancer, "cancer education support tools" were created, practical classes were conducted, and evaluation was conducted. One of the "Cancer Education Support Tools" is a picture book depicting the school life and feelings of a second grader who overcame childhood cancer and returned to school until he/she graduated from elementary school. In addition, interviews were conducted with teachers, guardians, and doctors to create a video to help children with cancer return to school with peace of mind. In the practical class, we examined whether picture books and videos could be used for "cancer education" for 5th grade elementary school students.

研究分野：特別支援教育

キーワード：がん教育 小児がん 養護教諭

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

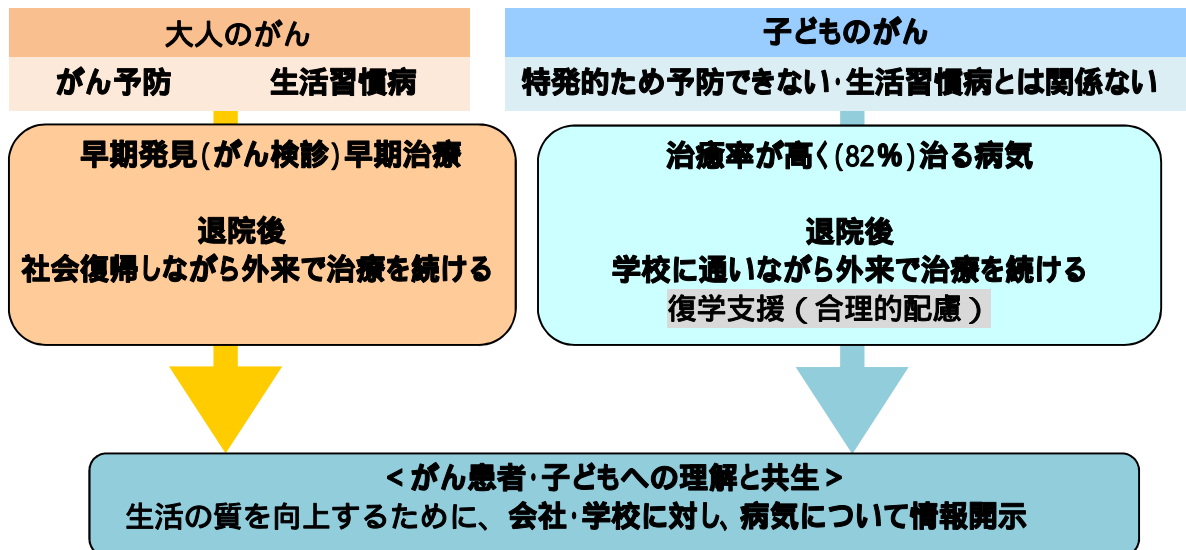
文部科学省は、平成24年に策定されたがん対策推進計画の中で、子どもに対して「がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育すること」を掲げている。そして「がん教育」の具体的な内容を がんとは(がんの要因等)、 がんの種類とその経験、 我が国のがんの状況、 がんの予防、 がんの早期発見・がん検診、 がんの治療法、 がん治療における緩和ケア、 がん患者の生活の質、 がん患者への理解と共生、としている。また、がん対策推進基本計画(平成24~28年度までの5年間)では、「がん」教育をどのようにするべきか検討し「教育活動の実施」を目標とした。それを受けて、平成26年度から「がんの教育総合支援事業」を実施し、全国でモデル事業を展開するとともに、がん教育の指導内容、教材の開発、医師の確保を含めた外部講師の活用方法等について検討を進めてきた。その成果報告として平成28年度に行われた「がん教育」モデル校による実践発表では、大人のがんの予防、治療法、生活の質についての教育はあるが、子どものがんについての報告はみられなかった。小児のがんは、生活習慣病とは関係なく特発的に発生するものであり、予防という観点からは説明できない。生活習慣病が「がんの要因」であると教えられた場合、がん治療を行った子どもに対して「生活習慣を守っていなかった」という偏見の目を向けられる懸念がある。また現在、がん患者の生存率は高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。これは小児がんにおいても同様の傾向であり、小児がんの治癒率は著しく向上し、社会復帰する子ども達が増加してきている。「がん教育」の内容に、がん患者への理解と共生が掲げられているが、小児がんの治療を終えた子ども達は入院する前に通っていた学校に戻り学校生活を送ることになるため、身近な友達や教員を含めた周囲の人が病気を理解してくれることは、復学した子ども達が学校生活を送る上で重要になる(山地ら、2013)。

文部科学省が、がん教育を「がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である」と定義している様に、現在、小児がんも含めたがんという病気を偏見なく理解するための具体的な方策の検討が喫緊の課題となっている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、学校における「がん教育」において、従来の大人のがんに加え子どものがんにも着目した教育プログラムを構築することである。がんに対する正しい知識と認識を目指している「がん教育」の中で、がんの子どもが周囲の児童からの理解と協力が得られるような「がん教育」プログラムを考案することが目的である。

### <大人と子どもの「がん教育」の違い>



### 3. 研究の方法

#### 研究1. 「がん教育」支援ツールの作成

学校における「がん教育」の実態調査を行い、現状と課題を明らかにした上で、小・中学校の児童生徒に対する「がん教育」の中で、がんの子どもへの理解を含めた「がん教育」支援ツールを作成する。

##### (1) 学校における「がん教育」の実態調査

対象：岡山県内の小中学校の養護教諭

内容： がん教育の授業実施の有無

実施した場合：授業内容（小児がんについて話したか等）

授業を行った職種、 がん教育への要望

##### (2) 「がん教育」支援ツールの作成

###### <動画>

児童生徒、学校教諭、周囲の保護者が小児がんの病気や支援、治療を理解できることを目的に、がんの子どもに関わったことがある担任、院内学級の教諭、保護者、医療者が、がんの子どもに対して行った支援や治療、思いを話す動画を作成した。

###### <絵本>

小児がんのため入院し、治療した子どもが復学した後の体力の低下や髪の毛の事など治療によっておこる困難を周りの友人や大人とのかかわりを通じて乗り越えていく姿、病気をした経験を糧に自分の夢を見つける過程を描いた「かがやけ！めいちゃん」の絵本を、小児がんに対する理解を促す「がん教育」支援ツールとして活用するために、修正をおこなった。

小学校4,5年生を対象に「かがやけ！めいちゃん」の絵本の読み聞かせを行い、絵本の内容および作成の意図が理解できるか、アンケート調査を実施した。絵本を活用した場合の効果や課題を明確にし、「がん教育」支援ツール（絵本）を修正した。

#### 研究2. 小児がんに着目した「がん教育」の実施および評価

ツール（絵本および動画）を活用した「がん教育」プログラムを考案し、小学校における道徳教育の中で、小学校5年生を対象に「がん教育」を2年間施行した。また現職教員、教育学部の学生に対しても、小児がんを含めた「がん教育」に関する研修会を実施し、学校内での「がん教育」体制作りができるように啓蒙を行った。

#### (1) 「がん教育」の実施（小学校）

絵本や動画などの資料を活用してディスカッションを行い、小児がんに対する理解の程度や反応を確認した。

#### (2) 「がん教育」の実施（教育学部教員養成課程の大学生）

絵本や動画などの資料を活用して、「自己学習後に教え合い、学んだことを伝える動画をグループで作成する」授業を実施し、評価を行った。

#### (3) 現職教員に対して、小児がんを含めた「がん教育」に関する研修会の実施

### 4. 研究成果

#### 1) 「がん教育」支援ツールの作成

##### <がんの子どもへの理解を含めた動画>

動画は、児童生徒が小児がんの子どもへの具体的な支援や思いを知ることで、相手の立場や気持ちを想像し、尊重することを通して、思いやりの心を持ち、自分ができる関わりを考える機会になることを目的に作成した。小児がんの子どもへの保護者や復学支援をしてきた教師、復学支援を視野に入れて治療を推進してきた医師、学習支援活動に従事している NPO 法人代表者などの経験を踏まえた話で構成されている。YouTube に「がんの子ども復学支援」のチャンネルを作成し、配信している。



病気の事、復学した時に注意して欲しいこと

保護者の経験談から、復学してくる子どもと保護者の気持ち

小児がんの子どもと関わったことがある教員の経験談から、復学に向けて準備した事、入院中、復学後に関わった具体的内容

入院中、復学後の学習・自立支援についての情報

##### <絵本「かがやけ！めいちゃん」>

絵本は、小児がんを克服し復学した小学校2年生の子どもが小学校を卒業するまでの学校生活と子どもの心情を表し、病気をした経験を糧に自分の夢を見つける過程を描いたものである。内容は復学当日の「おかえりなさいの会」から始まり、復学直後の保健室でのサポート、外来通院の事、校外学習での合理的配慮、感染予防について、学校の先生や友人から「どのような支援を得たのか」、「子どもはどのように感じていたのか」を理解できる構成になっている。



## 2) 小児がんに着目した「がん教育」の実施および評価

### <小学5年生>

A 小学校の5年生を対象に「がんの子ども気持ちを想像し、自分で出来ることを考える」を目標に、復学後の学校生活を描いた絵本(かがやけ! めいちゃん)を活用した授業を実施し、評価を行った。

絵本の読み聞かせ後に、主人公が戸惑っている場面(シーン1:体がきつい時に素直に友達からの助けを受け入れられない、シーン2:点滴の痕が気になり、プールに入ることを嫌がっている)を取り上げ、ディスカッションを行った。その結果、生徒は「困った時に助ける」「気になることは言わずそっと見守る」「からかわない」「普段と同じように接する」等、主人公に対し、自分はどのように接したいのか、考えられるようになった。

また「しんどいのに無理をしてしまう」気持ちと「他の子との違いを気にしてしまう」気持ちを、児童は想像しながら自分に置き換えて理解しようとしていた。絵本の中にある友人と教員、母親による声かけを基に、自分で出来ることを考えていた。さらに児童は、主人公の退院後の状況や気持ちを共感的に理解しており、一定の効果があることが明らかになった。この授業で生徒は、がんについて自分事のように考えるようになり、がん教育内容の一つである「がん患者への理解と共生」の目標は、概ね達成できたと思われる。今後は中高生も含めたがん教育を実施する際に、ディスカッションだけでなく、子ども達自身が主体的に参加できる実施方法を考案する必要性が示唆された。

### <大学生>

教育学部養護教諭養成課程の学生(2年生)を対象に、がんの子どもへの理解を促す「がん教育」支援ツールの動画と絵本の視聴を行い、「自己学習後に教え合い、学んだことを伝える動画をグループで作成する」授業を実施し、評価を行った。授業は、最初に「かがやけ! めいちゃん」と支援者の動画を視聴し、文部科学省がホームページに掲載している「がん教育モジュール」を各自に割り当てて、自己学習を行った。その後、1グループ6~7人になり、自己学習した各モジュールの内容をお互いに教え合い、学びを共有した。また、各グループが1つのモジュールを担当し、そのモジュールの内容が伝わるように学生が劇の脚本を作成し、動画を撮影した。動画は授業内で発表し、がんの知識の学びを深めた。

### <現職教員>

養護教諭と管理職(教頭)を対象に、今回の研究で作成した絵本と動画を用いて「がん教育と復学支援」に関する講演を2回実施した。

また岡山県教育委員会特別支援教育課の長期療養児支援充実事業の一環として発行された「病気療養児ガイドブック(理論+実践編)」の中で、小児がんの子どもへの理解を促すために「がん教育」支援ツール(絵本および動画)を提示した。さらに「かがやけ! めいちゃん」の絵本は、岡山県内の小学校、中学校、高校の全校へ配布した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 森口清美、大見サキエ、畑中めぐみ、嶋田明、今井剛	4. 巻 14
2. 論文標題 小児がんに着目した「がん教育」支援プログラム構築のための基礎的研究 がん教育支援ツール（動画）の作成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 就実教育実践研究	6. 最初と最後の頁 17 - 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森口清美	4. 巻 15
2. 論文標題 主体的で対話的な深い学びを得るための「がん教育」支援プログラムの試案 養護教諭養成課程の学生を対象に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 就実教育実践研究	6. 最初と最後の頁 6-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森口清美、大見サキエ、畑中めぐみ、十河妹、鎌森亮太、岡本瑞己、山部英之	4. 巻 51
2. 論文標題 小児がんに着目した「がん教育」支援ツール（絵本）の開発 「がん教育」授業の実施および評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 就実論叢	6. 最初と最後の頁 111-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大見 サキエ、森口 清美、畑中 めぐみ、高木歩、河合洋子、宮城嶋恭子、安田和夫、平賀健太郎、高橋由美子、堀部敬三	4. 巻 14
2. 論文標題 がんの子どもを主人公とした絵本の道徳教育への活用可能性の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 椋山女学園大学看護学研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -



〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森口清美、大見サキエ、畑中めぐみ、十河妹、鎌森亮太、岡本瑞己、山部英之
2. 発表標題 小児がんに着目した「がん教育」支援プログラム構築のための基礎的研究-復学支援ツール（絵本）を活用した「がん教育」授業の実施および評価-
3. 学会等名 日本医学看護学教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 森口清美 大見サキエ 畑中めぐみ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 フクロウ出版	5. 総ページ数 32
3. 書名 かがやけ！めいちゃん	

1. 著者名 森口清美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東山書房	5. 総ページ数 5
3. 書名 新版：学校看護 すべての子供の健康実現を目指して 6章2.2) 入院した子供と家族の支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大見 サキエ  (omi sakie)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	畑中 めぐみ  (hatanaka megumi)		
研究協力者	嶋田 明  (simada akira)		
研究協力者	今井 剛  (imai tuyosi)		
研究協力者	十河 妹  (sogo mai)		
研究協力者	山部 英之  (yamabe hideyuki)		
研究協力者	鎌森 亮太  (kamamori ryouta)		
研究協力者	岡本 瑞己  (oamoto mizuki)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------